

4. 各報告書の詳細

分析結果報告書確認表示用の画面はA4用紙印刷を考慮し、小さめにレイアウトされています。

入力方法の共通的な部分は、前記の表 3-4.1「各分析結果報告書の共通事項」として、「分析主担当者」、「分析主担当者の経験年数」、「分析主担当者の実績」の入力方法を示しています。

また、以下に共通的な事項（注意点等）を示します。

○分析条件等

複数回測定（併行測定）のうち、1回目の分析条件を記入します。ただし、試料の指示値（吸光度等）等については、3回分を記入する場合があります。

○指示値

指示値としては、吸光度、ピーク高さ、ピーク面積等があり、内標準法ではその比（例えばピーク面積比）もあり、またそれらの比例値もあり、このように各種のものがあります。記入にあたっては、いずれの値も可能です。

ただし、指示値の記入欄には、検量線の最高濃度、試料、空試験の3つ（3か所）あり、記入にあたっては3か所とも同じ種類（単位）のものとしてください。

○分析を実施しなかった項目の結果

複数の分析項目を含んでいる分析結果報告書（例えば、分析結果報告書〔7〕及び〔8〕のダイオキシン類）の作成にあたって、分析を実施しなかった項目があった場合には、その項目の結果は「9999」と入力してください。なにも入力しないでエラーメッセージ（例えば、「分析結果・・・の検出下限値以上または検出下限値未満での検出下限値のいずれかは必須項目です。該当する値を入力して下さい。」）が表示される場合には、確定できませんので、ご注意ください。

○分析結果（数値の丸め方）

分析結果については、分析項目により有効数字3桁又は2桁としています。数値の丸め方はJIS Z 8401に従ってください。

4-1 分析結果報告書〔1〕

排水試料に関する分析結果報告書〔1〕の入力方法の詳細を記します

表 4-1 排水試料（COD）（分析結果報告書〔1〕）

分析結果	数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。 単位：mg/L。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。
・分析結果(検出下限値以上) (検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。

(注) 検出下限 : 例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。 分析開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。 分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
分析条件	3回測定(併行測定)のうち、1回目の分析条件を記入。ただし、試料の滴定値については、3回分を記入。
<分析条件等> 試料量 銀 種類 添加量 水浴中の温度 過マンガン酸カリウムのファクター 過マンガン酸カリウムの滴定量 (試料、空試験) 標準原液	数値(半角)入力。単位:mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:mL又はg。 数値(半角)入力。単位:℃。 数値(半角)入力。 数値(半角)入力。単位:mL。試料では3回分を記入。 コンボボックスより選択。1を選択した場合には、具体的に記入。
<試料の保存状況> 保存方法 保存温度	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:℃
分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	<u>150文字以内</u> で簡潔に記入する。
計算式	<u>150文字以内</u> で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。 例(COD) 分析結果(mg/L) = (滴定量mL - 空試験の滴定量mL) × 過マンガン酸カリウムのファクター × 1000 ÷ 試料量(mL) × 0.2

4-2 分析結果報告書 [2]

排水試料に関する分析結果報告書[2]の入力方法の詳細を記します。

表 4-2 排水試料（全窒素）（分析結果報告書 [2]）

分析結果	<p>数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。 <u>単位：mg/L。</u> 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。</p>
・分析結果(検出下限値以上) (検出下限未満での検出下限の値)	<p>検出下限値以上では、<u>JIS Z 8401</u>によって数値を丸めて<u>分析結果を有効数字3桁</u>で記入。 検出下限値未満では、<u>検出下限値を有効数字1桁</u>で記入。</p>
(注) 検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	<p>分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。</p>
分析開始月日 分析終了月日	<p>コンボボックスより選択。 分析開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。 分析終了日は定量操作を完了した日。</p>
分析方法 使用した水	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p>
分析条件	<p><u>3回測定（併行測定）のうち、1回目の分析条件を記入。</u> ただし、試料の指示値等については、3回分を記入。</p>

<p><総和法></p> <p>「硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の分析」</p> <p>試料量</p> <p>留出液量</p> <p>留出液の分取量</p> <p>測定波長</p> <p>分析結果</p> <p>「アンモニア性窒素及び有機性窒素の分析」</p> <p>試料量</p> <p>留出液量</p> <p>留出液の分取量</p> <p>測定波長</p> <p>分析結果</p>	<p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>数値（半角）入力。単位：nm。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mg/L。3回分を記入。検出下限値未満では「0」を記入</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>数値（半角）入力。単位：nm。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mg/L。3回分を記入。検出下限値未満では「0」を記入</p>
<p><紫外吸光光度法></p> <p>試料の希釈</p> <p>試料量（希釈した試料量）</p> <p>分解瓶 種類</p> <p>容量</p> <p>測定波長</p>	<p>希釈倍率入力。希釈しない場合には、「1」。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>数値（半角）入力。単位：nm。</p>
<p><検量線の作成等 1 ></p> <p>測定対象</p> <p>標準液濃度の表示</p> <p>検量線の作成 作成点数</p> <p>作成範囲 最小濃度</p> <p>最大濃度</p> <p>最高濃度の指示値</p> <p>試料 指示値</p> <p>空試験 指示値</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。整数。</p> <p>数値（半角）入力。単位：μg。「ゼロ(0)」は含めない。</p> <p>数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。</p> <p>数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。</p> <p>数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。</p> <p>数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。</p>
<p><検量線の作成等 2 ></p>	<p><検量線の作成等 1 >と同様に記入。</p>
<p>分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点</p>	<p>150文字以内で簡潔に記入する。</p>

計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されて いる用語を用いて記入する。記入例は、排水試料（COD）を参照する。
-----	--

4-3 分析結果報告書 [3]

排水試料に関する分析結果報告書[3]の入力方法の詳細を記します。

表 4-3 排水試料（硝酸性窒素）（分析結果報告書 [3]）

分析結果	数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。 <u>単位：mg/L。</u> 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。
・分析結果(検出下限値以上) (検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値以上では、 <u>JIS Z 8401</u> によって数値を丸めて <u>分析結果を有効数字3桁</u> で記入。 検出下限値未満では、 <u>検出下限値を有効数字1桁</u> で記入。
(注) 検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。 分析開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。 分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
分析条件	<u>3回測定（併行測定）のうち、1回目の分析条件を記入。</u> <u>ただし、試料の指示値等については、3回分を記入。</u>

<p><還元蒸留-イットフェール青吸光度法></p> <p>「硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の分析」</p> <p>試料量</p> <p>還元用の溶液量</p> <p>流出液の分取量</p> <p>測定波長</p> <p>分析結果</p> <p>「亜硝酸性窒素の分析」</p> <p>方法</p> <p>試料量</p> <p>分析結果</p>	<p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>数値（半角）入力。単位：nm。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mg/L。3回分を記入。検出下限値未満では「0」を記入</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mg/L。3回分を記入。検出下限値未満では「0」を記入</p>
<p><銅・カドミウム還元-ナフチルエチレンジアミン吸光度法></p> <p>「硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の分析」</p> <p>試料量</p> <p>留出液量</p> <p>留出液の分取量</p> <p>測定波長</p> <p>分析結果</p> <p>「亜硝酸性窒素の分析」</p> <p>方法</p> <p>試料量</p> <p>分析結果</p>	<p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>数値（半角）入力。単位：nm。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mg/L。3回分を記入。検出下限値未満では「0」を記入</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mg/L。3回分を記入。検出下限値未満では「0」を記入</p>
<p><イオンクロマトグラフ法></p> <p>前処理</p> <p>試料の希釈</p> <p>溶離液の種類</p> <p>カラムの種類</p> <p>イオンクロマトグラフ</p> <p>メーカー型式</p> <p>区分</p> <p>注入量</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>希釈倍率入力。希釈しない場合には、「1」。</p> <p>具体的に記入。</p> <p>具体的に記入。</p> <p>具体的に記入</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>数値（半角）入力。単位：μL。</p>

< 検量線の作成等 1 > 測定対象 標準液濃度の表示 検量線の作成 作成点数 作成範囲 最小濃度 最大濃度 最高濃度の指示値 試料 指示値 空試験 指示値		コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。整数。 数値（半角）入力。単位：吸光度法では μg 、イオンクロマトグラフ法では mg/L 。「ゼロ(0)」は含めない。 数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。 数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。 数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。 数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
< 検量線の作成等 2 >		< 検量線の作成等 1 >と同様に記入。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	<u>150文字以内</u> で簡潔に記入する。	
計算式	<u>150文字以内</u> で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、排水試料（COD）を参照する。	

4-4 分析結果報告書 [4]

廃棄物（ばいじん）試料に関する分析結果報告書[4]の入力方法の詳細を記します

表 4-4 廃棄物（ばいじん）試料（溶出試験：鉛）（分析結果報告書 [4]）

○表 4-4(1)分析結果

分析結果	数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。 <u>単位：mg/L</u> 。検液（溶出液）1Lあたりの鉛（Pb）のmgとして記入。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。
・分析結果(検出下限値以上) (検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値以上では、 <u>JIS Z 8401</u> によって数値を丸めて <u>分析結果を有効数字3桁</u> で記入。 検出下限値未満では、 <u>検出下限値を有効数字1桁</u> で記入。

<p>(注) 検出下限 : 例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。</p>	<p>分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。</p>
---	---

○表 4-4(2)検液(溶出液)の作成

分析結果報告書の名称は、分析結果報告書[4~6](共通)となっています。

(3回の併行測定のために下記は1~3回で概略同様であり、1回目を記入する。)

<p><試料液の調製> 容器 種類 容量 試料(ばいじん)量 溶媒(水) 種類 量 pH</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:mL。 数値(半角)入力。単位:g。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:mL。 数値(半角)入力。</p>
<p><試料液調整後の放置時間> 試料液の調製から溶出操作(振とう)までの放置時間</p>	<p>数値(半角)入力。単位:時間。試料液の調製後直ちに振とうした場合には0(ゼロ)時間とする。30分では0.5時間とする。</p>
<p><溶出操作> 容器の置き方/振とう方向 気温 気圧 振とう機 振とう回数 振とう幅 振とう方法</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:℃。振とう開始時の気温(室温)の概略値を記入する。 数値(半角)入力。単位:気圧。振とう開始時の気圧の概略値を記入する。 数値(半角)入力。単位:回/分。 数値(半角)入力。単位:cm。 <u>6時間連続振とう</u></p>
<p><振とう後の放置時間> 振とう終了からろ過(又は遠心分離)までの放置時間</p>	<p>数値(半角)入力。単位:時間。振とう後直ちにろ過した場合には0(ゼロ)時間とする。30分では0.5時間とする。</p>

<ろ過等>	
ろ過 実施の有無	コンボボックスより選択。
ろ紙 種類	孔径 $1\ \mu\text{m}$ のグラスファイバーフィルターペーパー (GFP)
メーカー	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
型式	具体的に記入。
方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
遠心分離 実施の有無	コンボボックスより選択。
回転数	数値 (半角) 入力。単位: 回/分。
回転時間	数値 (半角) 入力。単位: 分。
作成したろ液 (溶出液) 量	数値 (半角) 入力。単位: mL。
<検液 (溶出液) の作成後>	
溶出液の作成から検定までの時間	
鉛	数値 (半角) 入力。単位: 時間。溶出液作成後直ちに分析に必要な量をはかり取った場合には、0 (ゼロ) 時間とする。分析項目ごとに概略の時間を記入する。
銅	
カルシウム	
溶出液の保存状況 保存処理	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
保存方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
保存温度	数値 (半角) 入力。単位: °C。

○表 4-4(3)検定の方法 (各項目の分析方法)

(3回の併行測定のために下記は1~3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値 (吸光度、ピーク高さ等) については、3回分を記入する。)

開始月日	コンボボックスより選択。
終了月日	開始日は分析 (前処理操作を含む) を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。
使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<前処理>	
試料 (溶出液) 量	数値 (半角) 入力。単位: mL。
準備操作	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
試験溶液の量 (定容量)	数値 (半角) 入力。単位: mL。

<p><溶媒抽出等></p> <p>準備操作（溶媒抽出等）</p> <p>試験溶液の分取量</p> <p>溶媒の種類</p> <p>キレートの種類</p> <p>抽出回数</p> <p>溶媒の使用量</p> <p>最終の定容量</p> <p>最終溶液の液性</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：回。</p> <p>数値（半角）入力。1回当たりの使用量。単位：mL。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p>
<p><原子吸光法></p> <p>試験溶液の希釈 希釈倍率</p> <p>電気加熱法 注入量</p> <p>注入の方法</p> <p>原子化の方法</p> <p>モーターの添加</p> <p>原子吸光装置 バックグラウンド補正</p> <p>測定波長</p>	<p>希釈倍率入力。希釈しない場合には、「1」。</p> <p>単位：μL。希釈しない場合には、「1」。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：nm。</p>
<p><ICP発光分光分析法></p> <p>試験溶液の希釈 希釈倍率</p> <p>装置 型式</p> <p>バックグラウンド補正</p> <p>超音波ネブライザーの使用</p> <p>測定時間</p> <p>測定波長</p>	<p>希釈倍率入力。希釈しない場合には、「1」。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>数値（半角）入力。単位：秒。</p> <p>数値（半角）入力。単位：nm。</p>

<p><ICP質量分析法></p> <p>試験溶液の希釈 希釈倍率 スペクトル干渉の低減又は補正 質量分析計</p> <p>コリジョンリアクションセル 水素化物発生 補正式による補正</p> <p>その他</p> <p>積分時間 質量数</p>	<p>希釈倍率入力。希釈しない場合には、「1」。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>補正式による補正を行った場合には、補正前と補正後の指示値について「イオンカウント値」等、数値（半角）入力。</p> <p>コンボボックスより選択。「行う」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：秒。</p> <p>数値（半角）入力。</p>
<p><検量線の作成等></p> <p>定量方法 方法 内標準物質の種類</p>	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p>
<p>検量線の作成 作成点数 作成範囲 最小濃度 最大濃度 最高濃度の指示値</p>	<p>数値（半角）入力。整数。</p> <p>数値（半角）入力。分析装置で測定する溶液中の濃度(mg/L)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。</p> <p>数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。</p> <p>数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。</p>
<p>試料 指示値</p>	<p>数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。</p>
<p>空試験 指示値</p>	<p>数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。</p>
<p>検出下限</p>	<p>数値（半角）入力。単位：mg/L。</p>
<p>分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点</p>	<p>150文字以内で簡潔に記入する。</p>
<p>計算式</p>	<p>150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、排水試料（COD）を参照する。</p>

4-5 分析結果報告書 [5]

廃棄物（ばいじん）試料に関する分析結果報告書[5]の入力方法の詳細を記します。

表 4-5 廃棄物（ばいじん）試料（溶出試験：銅）（分析結果報告書 [5]）

○表 4-5(1)分析結果

表 4-4(1)分析結果（鉛）を参考に記入する。

○表 4-5(2)検液（溶出液）の作成

表 4-4(2)検液（溶出液）の作成（鉛）と同じ。

○表 4-5(3)検定の方法（各項目の分析方法）

表 4-4(3)検定の方法（各項目の分析方法）（鉛）を参考に記入する。

4-6 分析結果報告書 [6]

廃棄物（ばいじん）試料に関する分析結果報告書[6]の入力方法の詳細を記します。

表 4-6 廃棄物（ばいじん）試料（溶出試験：カルシウム）
（分析結果報告書 [6]）

○表 4-6(1)分析結果

表 4-4(1)分析結果（鉛）を参考に記入する。

○表 4-6(2)検液（溶出液）の作成

表 4-4(2)検液（溶出液）の作成（鉛）と同じ。

○表 4-6(3)検定の方法（各項目の分析方法）

（3回の併行測定のために下記は1～3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値（滴定値、吸光度、ピーク高さ等）については、3回分を記入する。）

開始月日	コンボボックスより選択。
終了月日	開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。
使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<キレート滴定法>	
試料量	数値（半角）入力。単位：mL。
準備操作	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
試料の希釈 希釈倍率	希釈倍率入力。希釈しない場合には、「1」。
滴定量	数値（半角）入力。単位：mL。3回分を記入。

<p><フレイム原子吸光法></p> <p>試料量 準備操作</p> <p>試料の希釈 希釈倍率</p> <p>原子吸光装置 バックグラウンド補正</p> <p>測定波長 フレイム</p> <p>ランタン溶液の添加</p>	<p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>希釈倍率入力。希釈しない場合には、「1」。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：nm。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p>
<p><ICP発光分光分析法></p> <p>試料量 準備操作</p> <p>試料の希釈 希釈倍率</p> <p>装置 型式</p> <p>バックグラウンド補正</p> <p>超音波ネブライザーの使用</p> <p>測定時間</p> <p>測定波長</p>	<p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>希釈倍率入力。希釈しない場合には、「1」。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>数値（半角）入力。単位：秒。</p> <p>数値（半角）入力。単位：nm。</p>
<p><イオンクロマトグラフ法></p> <p>準備操作</p> <p>試料の希釈 希釈倍率</p> <p>溶離液の種類</p> <p>カラムの種類</p> <p>イオンクロマトグラフ</p> <p>メーカー型式</p> <p>区分</p> <p>注入量</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>希釈倍率入力。希釈しない場合には、「1」。</p> <p>具体的に記入。</p> <p>具体的に記入。</p> <p>具体的に記入</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>数値（半角）入力。単位：μL。</p>
<p><検量線の作成等></p> <p>定量方法 方法</p> <p>内標準物質の種類</p>	<p>滴定法以外の場合に記入する。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p>

検量線の作成 作成点数	数値（半角）入力。整数。
作成範囲 最小濃度	数値（半角）入力。分析装置で測定する溶液中の濃度(mg/L)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。
最大濃度	数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。
最高濃度の指示値	数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料 指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。
空試験 指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
検出下限	数値（半角）入力。単位：mg/L。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、排水試料（COD）を参照する。

4-7 分析結果報告書 [7]

廃棄物（はいじん）試料に関する分析結果報告書[7]の入力方法の詳細を記します。ここには、「特別管理一般廃棄物及び特別管理産業廃棄物に係る基準の検定方法」に規定する抽出方法の場合の結果を記入する。この検定方法の規定以外の抽出方法の場合には、分析結果報告書 [8] に記入する。

表 4-7 廃棄物（はいじん）試料（ダイオキシン類）（分析結果報告書 [7]）

測定回数	1～5の整数（半角）入力。分析用試料のはかり取りからGC/MS等の測定までの一連の操作を行った回数（併行測定の回数）を記入。
分析結果	数値（半角）入力。単位：ng/g。 （分析を実施しない項目があった場合には、「9999」と入力） 「定量下限値以上」、「検出下限～定量下限」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。 測定回数分の分析結果を記入。例えば、1回測定の場合には、「1回目の分析結果」欄に記入し、「2～5回目の分析結果」欄は記入しない。

<p>・分析結果（定量下限値以上）</p> <p>（検出下限～定量下限）</p> <p>（検出下限未満での検出下限の値）</p>	<p>定量下限値以上では、<u>JIS Z 8401</u>によって数値を丸めて有効数字2桁で記入。</p> <p>検出下限以上定量下限値未満では、<u>JIS Z 8401</u>によって数値を丸めて有効数字2桁で記入。</p> <p>検出下限値未満では、<u>検出下限値を有効数字1桁</u>で記入。</p>
<p>（注）分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（定量下限値以上、検出下限以上定量下限未満の値または検出下限未満での検出下限の値）は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。</p> <p>検出下限、定量下限とは、試料における検出下限、定量下限値を示す。</p>	
分析条件	2回以上の併行測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する。ただし、試料の分取量については、測定回数分を記入する。
<p><抽出></p> <p>試料のはかり取り量</p>	<p>数値（半角）入力。単位：g。測定回数分を記入する。PCDDs及びPCDFs用とDL-PCB用と異なる取り方を行った場合には、「メモ」欄にその概要を記入する。</p>
2mol/L塩酸の使用量	数値（半角）入力。単位：mL。
ろ過に使用したろ紙の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
ヘキサン洗浄水の量	数値（半角）入力。単位：mL。
<p>洗浄溶媒 種類</p> <p>量</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p>
<p>ソックスレー抽出 溶媒</p> <p>（塩酸処理後の残さ）抽出時間</p> <p>溶媒量</p> <p>ろ紙の種類</p>	<p>トルエン</p> <p>数値（半角）入力。単位：時間。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p>
<p>液・液抽出 溶媒</p> <p>（塩酸溶液・洗浄液）</p> <p>抽出回数</p> <p>溶媒量</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：回。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL／回。</p>
抽出液の濃縮	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
濃縮後の定容量（抽出液）	数値（半角）入力。単位：mL。

クリーンアップ用の試料 (抽出液の分取量)	数値(半角)入力。単位:mL。 「PCDDs、PCDFs及びDL-PCB用」として取った場合には上段に記入する。「PCDDs及びPCDFs用」と「DL-PCB用」に別々に取った場合には、下段に、別々に記入する。また、PCDDs及びPCDFs用とDL-PCB用で異なる取り方を行った場合等には、「メモ」欄にその概要を記入する。
クリーンアップスピック 添加 添加箇所	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<クリーンアップ> A 硫酸処理 シリカゲルクロマト 多層シリカゲルクロマト	すべての項目とも、コンボボックスより選択。
B その他の操作 GC/MS分析用試料液の調製 方法	すべての操作とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
C 硫黄分除去の処理	すべての操作とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
クリーンアップ方法	上記A~Cの記号を用いて記入する。
転用溶媒	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
GC/MS分析用試料液 PCDDs及びPCDFs用 DL-PCB用	数値(半角)入力。単位:μL。 GC/MS分析用試料液の量であり、 <u>GCへの注入量でないこと</u> に注意する。
<GC/MS> 対応物質 PCDDs及びPCDFs DL-PCB	(対応物質ごとにGC/MS 1~5に記入する) チェックボックスにチェック。分析対象とした塩素化物を選択。
GC 型式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
カラム 型式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
内径	数値(半角)入力。単位:mm。
長さ	数値(半角)入力。単位:m。
膜厚	数値(半角)入力。単位:μm。
昇温条件	温度(°C)、温度保持(分)、昇温速度(°C/分)、昇温回数(回)とも数値(半角)入力。5回以上の昇温を行った場合には、最終の温度と温度保持を記入。

<p>注 入 量</p> <p>注入口温度</p> <p>注入方式</p>	<p>数値（半角）入力。単位：GCへの注入量(μL)を記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：$^{\circ}$C。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p>
<p>キャリアガス条件 流量</p> <p>圧力</p>	<p>数値（半角）入力。単位：mL/分。</p> <p>数値（半角）入力。</p> <p>単位については、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p>
<p>MS型式 型式</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p>
<p>測定時の分解能</p>	<p>コンボボックスより選択。</p>
<p>イオン化 方法</p> <p>電圧</p> <p>電流</p> <p>イオン源温度</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>数値（半角）入力。単位：$^{\circ}$C。</p>
<p><検量線の作成></p> <p>PCDDs及びPCDFs 作成点数</p> <p>作成範囲 最小濃度</p> <p>最大濃度</p> <p>繰り返し数</p> <p>DL-PCB 作成点数</p> <p>作成範囲 最小濃度</p> <p>最大濃度</p> <p>繰り返し数</p>	<p>数値（半角）入力。整数。</p> <p>数値（半角）入力。GCに注入する標準液の濃度(n g/mL)を記入。「ゼロ(0)」は含めず、異性体で異なる場合には最小値を記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。異性体で異なる場合には、最大値を記入。</p> <p>数値（半角）入力。整数。</p> <p>-----</p> <p>PCDDs及びPCDFsと同様に記入。</p>
<p>標準物質(液)</p> <p>PCDDs及びPCDFs 製造メーカー</p> <p>開封後の月数</p> <p>DL-PCB 製造メーカー</p> <p>開封後の月数</p>	<p>製造メーカーは、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>開封後の月数は、数値（半角）入力。単位：月。</p> <p>-----</p> <p>PCDDs及びPCDFsと同様に記入。</p>
<p>装置安定性 感度変動</p> <p>保持時間変動</p>	<p>数値（半角）入力。単位：%。</p> <p>数値（半角）入力。単位：%。</p>

<p><異性体別のGC/MS分析条件及び分離定量></p> <p>GC/MS分析条件</p> <p>分離定量</p>	<p>異性体別に選択又は具体的に記入。</p> <p>コンボボックスより選択。1～5のうち定量に使用した条件一つを選択する(分析条件GC/MS 1～GC/MS 5のいずれを選ぶ)</p> <p>コンボボックスより選択。分析条件(GCカラム等)から重なっている異性体があるときには「2」を選択する。「2」を選んだ場合、重なっている異性体がわかっているときには具体的に記入。</p>
<p><内標準物質の添加量と回収率></p> <p>クリーンアップスパイク 添加量</p> <p>クリーンアップスパイク 回収率</p> <p>シリンジスパイク 添加量</p>	<p>使用した内標準物質に該当する欄に記入。「その他」の内標準物質を使用した場合には、具体的に記入。</p> <p>数値(半角)入力。添加した内標準物質の量(n g)を記入。</p> <p>数値(半角)入力。添加した内標準物質の回収率(%)を記入。</p> <p>数値(半角)入力。添加した内標準物質の量(n g)を記入。</p>
<p><空試験値及び相対感度係数></p> <p>空試験値(操作ブランク)</p> <p>相対感度係数(RRFcs)</p> <p>相対感度係数(RRFrs)</p>	<p>数値(半角)入力。試料中の濃度(p g/g)に換算した値で記入(分析結果と同じ単位とする)。<u>空試験値が検出されない場合には記入しない(空欄とする)。</u></p> <p>数値(半角)入力。2つのモニターイオン(質量数)では平均値を記入。</p> <p>数値(半角)入力。2つのモニターイオン(質量数)では平均値を記入。</p>
<p><検出下限値></p> <p>装置の検出下限</p> <p>試料における検出下限</p> <p>試料測定時の検出下限</p>	<p>数値(半角)入力。すべて<u>有効数字1桁</u>で記入。</p> <p>GC/MSで検出できる最小量(p g)を<u>有効数字1桁</u>で記入。</p> <p>検出できる試料中の最小濃度(n g/g)を<u>有効数字1桁</u>で記入(分析結果と同じ単位とする)。</p> <p>検出できる試料中の最小濃度(n g/g)を<u>有効数字1桁</u>で記入(分析結果と同じ単位とする)。<u>分析結果が検出下限未満であった場合に記入する。</u></p>

<測定質量数>	各塩素化物ごとに2つまでを選択（定量に用いた質量数を選択）。 質量数の表記は、記載しているマニュアル等により異なっていることもあり、 <u>質量数0.01以下ではそのことを考慮して選択する（近い質量数を選択する）</u> 。「その他」を選んだ場合には、数値（半角）で具体的に記入。
---------	---

4-8 分析結果報告書 [8]

廃棄物（ばいじん）試料に関する分析結果報告書[8]の入力方法の詳細を記します。ここには、「特別管理一般廃棄物及び特別管理産業廃棄物に係る基準の検定方法」の規定以外の抽出方法の場合の結果を記入する。「特別管理一般廃棄物及び特別管理産業廃棄物に係る基準の検定方法」に規定する抽出方法の場合には、分析結果報告書 [7] に記入する。

表 4-8 廃棄物（ばいじん）試料（ダイオキシン類）
（分析結果報告書 [8]）

測定回数	1～5の整数（半角）入力。 <u>分析用試料のはかり取りからGC/MS等の測定までの一連の操作を行った回数（併行測定の数）</u> を記入。
分析結果	数値（半角）入力。 <u>単位：ng/g</u> 。 （分析を実施しない項目があった場合には、「9999」と入力） 「定量下限値以上」、「検出下限～定量下限」又は「検出下限未満 での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。 測定回数分の分析結果を記入。例えば、1回測定の場合には、「1回目の分析結果」欄に記入し、「2～5回目の分析結果」欄は記入しない。
・分析結果（定量下限値以上） （検出下限～定量下限） （検出下限未満での検出下限の値）	定量下限値以上では、 <u>JIS Z 8401</u> によって数値を丸めて <u>有効数字2桁</u> で記入。 検出下限以上定量下限値未満では、 <u>JIS Z 8401</u> によって数値を丸めて <u>有効数字2桁</u> で記入。 検出下限値未満では、 <u>検出下限値を有効数字1桁</u> で記入。

<p>(注) 分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（定量下限値以上、検出下限以上定量下限未満の値または検出下限未満での検出下限の値）は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。</p> <p>検出下限、定量下限とは、試料における検出下限、定量下限値を示す。</p>	
分析条件	2回以上の併行測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する。ただし、試料の分取量については、測定回数分を記入する。
<抽出> 試料のはかり取り量	数値（半角）入力。単位：g。測定回数分を記入する。PCDDs及びPCDFs用とDL-PCB用と異なる取り方を行った場合には、「メモ」欄にその概要を記入する。
2mol/L塩酸の使用量	数値（半角）入力。単位：mL。
ろ過に使用したろ紙の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
ヘキサン洗浄水の量	数値（半角）入力。単位：mL。
洗浄溶媒 種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
量	数値（半角）入力。単位：mL。
(塩酸処理後の残さ)抽出方法 溶媒	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
(塩酸溶液・洗浄液)抽出方法 溶媒抽出	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
高速溶媒抽出（ASE）	
メーカー	具体的に記入。
型式	具体的に記入。
抽出時間	数値（半角）入力。単位：時間。
溶媒量	数値（半角）入力。単位：mL。
圧力	数値（半角）入力。単位：p s i。
温度	数値（半角）入力。単位：℃。
static	数値（半角）入力。単位：分。
Flush	数値（半角）入力。単位：%。
回数	数値（半角）入力。単位：回。
自動ソックスレー	
メーカー	具体的に記入。
型式	具体的に記入。
抽出時間	数値（半角）入力。単位：時間。
溶媒量	数値（半角）入力。単位：mL。

迅速自動抽出(ソックスサム)		
メーカー		具体的に記入。
型式		具体的に記入。
抽出時間		数値（半角）入力。単位：時間。
溶媒量		数値（半角）入力。単位：mL。
その他		
メーカー		具体的に記入。
型式		具体的に記入。
抽出時間		数値（半角）入力。単位：時間。
溶媒量		数値（半角）入力。単位：mL。

4-9 分析結果報告書 [9]

大気試料に関する分析結果報告書[9]の入力方法の詳細を記します。

表 4-9 大気試料（揮発性有機化合物）（分析結果報告書 [9]）

測定回数	1～5の整数（半角）入力。 <u>分析用試料のはかり取りから</u> <u>GC/MS等の測定までの一連の操作を行った回数（併行測定の回数）を記入。</u>
分析結果（詳細項目） 分析の実施 分析結果	コンボボックスより選択。 数値（半角）入力。単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 。 「分析を実施」した場合には、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。 測定回数分の分析結果を記入。例えば、1回測定の場合には、「1回目の分析結果」欄に記入し、「2～5回目の分析結果」欄は記入しない。
分析結果（検出下限値以上）	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。
（検出下限未満での検出下限の値）	検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
（注）検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	「分析を実施」した場合には、分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。

<p>分析結果（参照項目）</p> <p>分析の実施</p> <p>分析結果</p>	<p>分析結果（詳細項目）と同様に記入する。</p> <p>ただし、分析結果については、1つの分析結果を記入する。複数回測定では代表値（例えば、平均値等）として記入する。</p>
<p>分析開始月日</p> <p>分析終了月日</p>	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>分析開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。</p> <p>分析終了日は定量操作を完了した日。</p>
<p>分析方法</p> <p>分析時の温度</p> <p>分析時の大気圧 圧力</p> <p>単位</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。</p> <p>数値（半角）入力。単位：℃。</p> <p>数値（半角）入力。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入する。</p>
<p>分析条件</p>	<p>2回以上の併行測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する。ただし、試料の指示値（ピーク面積等）については、測定回数分を記入する。</p>
<p>< 試料の濃縮 ></p> <p>試料の希釈操作</p> <p>希釈倍率</p> <p>（圧希釈の場合） 加圧前圧力</p> <p>加圧後圧力</p> <p>圧力の単位</p> <p>試料量（濃縮量）</p> <p>濃縮部</p> <p>除湿部</p> <p>濃縮部の加熱温度</p> <p>トラップ管の加熱温度</p> <p>ページガス</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。</p> <p>数値（半角）入力。希釈しない場合には、「希釈倍率」は「1」とする。</p> <p>数値（半角）入力。</p> <p>数値（半角）入力。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>数値（半角）入力。単位：℃。</p> <p>数値（半角）入力。単位：℃。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。</p>

<p><GC/MS></p> <p>GC 型式</p> <p>MS 型式</p> <p>装置型式</p> <p>イオン検出法</p>	<p>すべての項目とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p>
<p>カラム 型式</p> <p>内径</p> <p>長さ</p> <p>膜厚</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mm。</p> <p>数値（半角）入力。単位：m。</p> <p>数値（半角）入力。単位：μm。</p>
<p>カラム昇温条件</p>	<p>温度（℃）、温度保持（分）、昇温速度（℃/分）、昇温回数（回）とも数値（半角）入力。5回以上の昇温を行った場合には、最終の温度と温度保持を記入。</p>
<p>キャリアガス条件 種類</p> <p>流量</p> <p>圧力</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL/分。</p> <p>数値（半角）入力。単位については、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p>
<p>注入 注入口温度</p> <p>注入方式</p>	<p>数値（半角）入力。単位：℃。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p>
<p><測定用質量数></p> <p>測定用質量数</p>	<p>すべての項目とも、数値（半角）入力。</p> <p>定量に用いた質量数1つを記入。</p>
<p><標準ガス></p> <p>区分</p> <p>購入：メーカー名</p>	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p>
<p><検出下限></p> <p>検出下限</p>	<p>数値（半角）入力。試料中の濃度（μg/m³）として記入。</p>
<p><検量線の作成等></p> <p>定量方法 方法</p> <p>（内標準法）種類</p> <p>添加量</p>	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。濃縮部中の量（ng）で記入。</p>

<p>検量線の作成 作成点数 作成範囲 最小量 最大量 単位 最高濃度の指示値</p>	<p>数値（半角）入力。整数。 数値（半角）入力。 数値（半角）入力。 コンボボックスより選択。GCの注入量(n g)又は濃度（ppb又は$\mu\text{g}/\text{m n}^3$）を記入。「ゼロ(0)」は含めない。 数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。</p>
<p>試料の指示値</p>	<p>数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。測定回数分を記入</p>
<p>空試験の指示値</p>	<p>数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。</p>
<p>分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点</p>	<p><u>150文字以内</u>で簡潔に記入する。</p>
<p>計算式</p>	<p><u>150文字以内</u>で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、排水試料（COD）を参照する。</p>